

# 第 1 学 年 国 語 科 学 習 指 導 案

日 時 平成 17 年 10 月 13 日 (木)  
児 童 1 年 生 男 3 名 女 4 名 計 7 名  
授 業 者 関 智

## 1 単元名 こえにだしてよもう

教材名 「くじらぐも」(光村図書一年下)

## 2 単元について

### (1) 児童について

1年生は国語の学習意欲も高く、ひらがなのスキル学習、音読などに積極的に取り組んできた。また、自分の考えを発表したり、文章に書いてまとめたりすることにも少しずつ慣れてきている。1学期に「はなのみち」「おむすびころりん」、2学期に「大きなかぶ」の学習をとおして、音読や登場人物の気持ちを想像する学習をしてきた。その結果、挿絵を見比べて様子の変化に気づいたり、動作化により登場人物の気持ちを想像したりする力が身についてきた。しかし、動作化による経験が少なく、場面の様子を想像するための動作化というよりも上手に表現しようとして意識してしまう子もあり、動作化の目的をはっきりさせることが課題である。

全体的に視写などの作業速度やひらがなの定着にはばらつきは見られなくなってきているものの、音読では長い文章もすらすらと読める子から、言葉や文をひとまとめとして読むことができず、1字ずつ目で追いながら読んでいる子までまちまちであるというのも現状である。

### (2) 教材について

体育の授業時間という身近な現実の中から、ふいと幻想の世界に入り、想像の世界で存分に遊んだ後に、また現実の時間と空間に戻る。物語開始の場面は身近で入りやすく、入ってみると一挙に想像の広がり誘い込んでくれ、そしてまた、きちんと現実の世界に戻してくれるという、子どもたちが安心して空想の世界に遊ぶことができる物語である。

これらのことから、「みんな」と「くじらぐも」の行動や会話など、自分たちが登場人物になって読んだり、動作化をしたりすることで、楽しみながら様子や気持ちを想像することに適した教材であると考えられる。

### (3) 指導にあたって

本単元の指導では、会話文と地の文に着目させ、叙述に即した読みを進めながら想像を高めるための動作化を取り入れた。作中人物になりきり、場面の様子を豊かに想像させたい。また、「・・・くじらぐも」という叙述をとらえて、子どもたちとくじらぐもとの対応を楽しく読み取らせたい。そして、子どもたちには、物語の世界に心と体を解放させ、存分に遊ばせたい。そうすることが、文字と挿絵を手がかりにして自分の物語を想像するという、読むことの学習の本質にかなうと考えるからである。

## 3 単元の目標について

### (1) 目標

<関心・意欲・態度>

- ・場面の様子を想像しながら読もうとしている。

<読むこと>

体操の時間や雲の上の様子などについて，想像を広げながら読む。（ウ）

- ・語や文のまとまりや内容，呼びかける声の大きさなどを考えて，声に出して読む。（エ）

<言語事項>

- ・新出漢字の使い方や言葉の使い方を理解する。

(2) 研究仮説3にかかわって

イ 場面の様子などについて，動作を加えながら読むこと。

4 学習指導計画（8時間）

時数	到達目標	評価規準
1 持つ	くじらぐものあらすじをつかみ，好きな場面やおもしろいところを見つけ発表しあうことができる。	A：ばらばらに掲示された挿絵をあらすじに沿って並べ替え，好きな場面やおもしろいところを見つけ発表している。 B：挿絵をもとにして場面の様子を説明したり，おもしろいところを見つけ発表している。
5 見通す・学び合う	子どもたちが「くじらぐも」と出会い，飛び乗ることになった様子を読み取ることができる。（場面1・2）	A：体操をしている様子を「～も」に気をつけて，はっきりした発音・適切な速さ・声の大きさ・間を工夫して音読し，読み取っている。 B：体操の内容ごとに区切り，間を工夫して音読している。
	くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちの様子と，それを応援するくじらぐもの様子を動作化しながら想像し読み取ることができる。（場面3） 本時	A：子どもたちがくじらぐもに乗るまでの過程や子どもたちの気持ちを動作化しながら想像し，読み取っている。 B：子どもたちがどのようにしてくじらぐもに乗ることができたか，考えを発表することができる。
	くじらぐもに乗って空を旅する子どもたちの様子を想像し，発表し合うことができる。（場面4）	A：子どもたちの様子を想像し，自分で考えた言葉を「」に入れて音読し読み取っている。 B：自分がくじらぐもに乗ったらどんな気持ちになるか考えを発表することができる。
	くじらぐもと別れる子どもたちの気持ちを読み取ることができる。（場面5）	A：子どもたちの気持ちを「さようなら」の後に言葉を付け加えて考え，はっきりとした声で音読し，読み取っている。 B：くじらぐもと別れるときの子どもたちの気持ちを想像して考えを発表することができる。

2 広 め る	物語を読んで思ったことや考えたことをもとに、自分が想像した雲に手紙を書くことができる。	A：おもしろかったこと、楽しかったこと、聞いてみたいことなどを話しかける言葉で文章に書いている。 B：まとめた文章を参考にして、手紙を書いている。
------------------	---	--

## 5 本時の指導

### (1) 到達目標と具体の評価規準

#### 到達目標

くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちの様子と、それを応援するくじらぐもの様子を動作を入れながら読み取ることができる。

#### 具体の評価規準と努力を要する児童への手だて

##### A（充分満足）

くじらぐもの「もっとたかく」という応援に子どもたちの気持ちが高まり、「天までとどけ、一、二、三。」のかけ声がかわっていき様子を動作化しながら想像し、読み取っている。

##### B（概ね満足）

どうにかしてくじらぐもに乗ろうとする子どもたちの気持ちを、三つの「天までとどけ、一、二、三。」を動作化しながら想像し、読み取っている。

##### C（努力を要する児童への手だて）

くじらぐもと子どもたちのどちらの会話にも着目させ、くじらぐもの「もっと高く」という応援に子どもたちの気持ちが高まっていき様子を動作化により想像させる。

### (2) 研究主題との関連

#### 仮説3

イ くじらぐもに乗ろうと、みんなが力を合わせ大きなかけ声をかけながらジャンプする様子や、それを応援するくじらぐもの様子を動作化により想像し、文章にかえて読み取らせる。

## (3) 展開

段階 時間	学習活動 教師の働きかけ（発問・指示）	児童の反応 評価 留意点	一人一人の読みの見取りと教師の手 だて
漢 字 5 分	1 漢字スキル	手本をよく見て、正確に書いているか 確かめる。	A・B男：雑になりがちなので筆順 や字の大きさに気をつけて書くよ うに指導する。
持 つ ・ 見 通 す	2 学習課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           みんなは、どのようにしてくじらぐもに のることができたのでしょうか。         </div> 3 学習場面の音読 発問指示の柱 したことを読み取る 指示 1 みんながしたことに気をつけて読みましょ う。 4 一人学び 発問 1 くじらぐもに乗ろうとして、初めにみんな がしたことは何ですか。 指示 2 みんなが、くじらにのろうとして、かけ声 をかけているところはどこですか。線を引きま しょう。	課題を読む。  段落読み（4人） 一斉読み（場面の確認）  みんなで手をつないだ。 ジャンプした。 「天まで～」とかけ声をかけた。  「天までとどけー、二、三。」に線を 引く。	C子：読み間違いが多いので、教科 書をしっかり見て読ませる。 D子，A男：指名音読。  C子：前時までの学習掲示を用い、 これまでのいきさつを確かめさせ る。
学 び 合 い	5 学び合い 発問指示の柱 「天までとどけー、二、 三。」を読み取る。 指示 3 1回目の「天までとどけ、一、二、三。」 の部分を視写しましょう。	「天までとどけ、一、二、三。」を視 写する。（視写文を音読して確認）	C子，B男：誤字や脱字が見られる ので、黒板と同じように視写させ る。（紙板書）

学 び 合 い	<p>指示 4 では、みんなも「天までとどけ、一、二、三。」と、音読してみましよう。</p> <p>発問 2 最初のジャンプでくじらぐもに乗ることができましたか。</p> <p>発問 3 1回目は乗れなかったのですね。くじらぐもはなんと言っていますか。</p> <p>指示 5 では、もっとたかく跳べるように、みんなでジャンプしてみましよう。</p> <p>発問 4 2回目のジャンプで乗ることができましたか。</p> <p>発問 5 くじらはなんと言っていますか。さっきと同じ言い方でいいですか。</p> <p>指示 6 くじらぐもになって言ってみましよう。</p> <p>指示 7 くじらに応援されて、子どもたちはどんな声で言ったのでしょうか。</p> <p>発問 6</p>	<p>みんなで一斉に「天までとどけ、一、二、三。」を読む。</p> <p>1回目は三十センチぐらい。</p> <p>「もっとたかく。もっとたかく。」</p> <p>「天までとどけ、一、二、三。」 <u>(動作化)</u></p> <p>できない。2回目は五十センチぐらい。</p> <p>「もっとたかく。もっとたかく。」 ちがう。大きな声で言っている。 叙述に即した読みに戻すため、座席に戻す。</p> <p>一斉読み「もっとたかく、もっとたかく。」</p> <p>一斉読み「天までとどけ、一、二、三。」 元気な声で言えるまで繰り返す。</p>	<p>B男，C男：順番がばらばらになりがちなので，最初と最後の会話に着目させる。</p> <p>B女：友だちの意見に左右されがちなので，自分の考えをしっかり持たせる。</p>
------------------	--	--	---

	<p>風にふきとばされた「みんな」は、どうなりましたか。書いてあるところを読みましよう。</p> <p>指示 8 3 回目にくじらぐもに乗れた理由を考え、ノートに書きましよう。</p>	<p>一斉読み「そして、あつというまに、～のっていました。」 くじらぐもに乗れたことを喜ぶ。</p> <p>みんなで力を合わせたから。 くじらぐもの応援があったから。 風が子どもたちを運んだことについても触れる。 評価 観点にもとづいた話し合いができたか。(観察)</p>	
<p>広める</p>	<p>6 広める 発問指示の柱 子どもたちの気持ちが伝わるように読む</p> <p>指示 9 隣の人の考えを聞いてみましよう。</p> <p>指示10 くじらぐもに乗れた理由を発表しましよう。</p> <p>7 まとめの音読 指示11 子どもたち、くじらぐもの気持ちが伝わるように読んでみましよう。</p> <p>8 感想発表 9 次の学習を知る</p>	<p>ノートで考えを比較する。</p> <p>自分の考えを発表する。 挿絵を用意する。 発表した理由の要点を板書する。</p> <p>指名読み (子どもたち5名、くじらぐも1名地の文1名)</p>	<p>A 女, B 男, D 女: 子どもたちとくじらぐもの両方に着目させる。</p> <p>D 子, A 男: 指名音読により, 学習の定着を図る。</p>

(4) 板書計画

くじらぐせ

子どもたちはどのよう  
にしてくじらぐせに  
のることができたので  
しょう。

みんなは、てをつないで、  
まるいわになると、  
「天までとどけ、一、  
二、三。」  
とジャンプしました。

もっと、たかく

一かいめ  
三十センチぐらい

もっと、たかく

二かいめ  
五十センチぐらい

二かいめ かぜがみんなをぶきとばした  
みんなのちからが一つになる。  
みんなでくじらぐせにのりたい。

挿絵

- ・ みんなでちからをあわせて  
ジャンプした。
- ・ くじらぐせにおうえんして  
もらってジャンプした。
- ・ つよいかぜにぶきとばされ  
た。